

# おもしろ・珍しい苗字一覧表

## 初級編

NO	苗字	呼び名	由来
1	珍名	ちんな	北海道に少数見られ、語源はアイヌ語。「チン」は足「ナ」は水や川という意味。
2	本名	ほんな・ほんみょう・ほんめい もとな	福島県西半部にあたる場所で、「岩代国大沼郡本名村」がルーツで、現在は「金山町本名」と変わっている。
3	面白	おもしろ・おもじろ・おもて	現在の島根県で「出雲国意宇郡面白邑」が発祥。福島県でも見られる地名で、風景や地形がおもしろい所からきている。地表が白く砂地で平板になっている場所などをさす。島根県・兵庫県に少数見られる。
4	御手洗	みたらい・みたらし・みたあらい・みたいら・おてあらい・みだらい・みてしろ・みてらし	御手洗とは、神社やお寺でお参りする前に口や手を荒い、清める場所のこと。とても神聖な意味を持つ苗字です。福岡県・大分県・山口県に多い苗字。
5	大仏	おさらぎ	鎌倉幕府の執権を世襲した北条氏の苗字の一つ。「だいぶつ」ではなく「おさらぎ」と読む理由は、「若木山（おさらぎやま）」という山が大仏の形に似ていて、「おさなぎ」から「おさらぎ」に変化した。
6	努力	ぬりき	「努力」と書いて「ぬりき」と読む。大阪府に少数見られる。
7	樂々	ささ	全国で10人ほどの希少な妙字。由来は不明。
8	記録	きろく	東京都・静岡県・大阪府・広島県見られる珍しい苗字
9	佐曾利	さそり	「摂津国川辺郡佐曾利」が起源という。「佐」は下野国佐野庄、または佐衛門尉の職名で、律令制下の官職
10	一言	ひとこと	静岡県西部である遠江国豊田郡一言村が起源。磐田市の一言神社には、徳川家康が敗戦した時に一言お祈りし、聞き届けられたという言い伝えもある。
11	平安名	へんな・へいあんな・へあんな ひらやすな・へいあんみょう・ ひらあな	沖縄県の地名、「勝連間平安名」が起源。「平」は平坦な地形を表している。
12	接待	せつたい・あたち	現材の岩手県である「陸中国閉伊郡接待邑」が発祥。清和天皇の子孫で源姓を賜わった氏（清和源氏）の南部氏族という。
13	一円	いちえん	現在の滋賀県の近江国犬上郡一円村が起源。中世の地名であり、領主から土地一円（全域）頂戴したことによる。
14	大王	だいおう・おおきみ	宮城県日向市や三重県志摩市などに「大王」という地名はある。また、大王寺・大王社などの地名がある。「大王」は職掌姓であり、天皇の二世以下、四世以上の親族に関することを司ったという語源もある。
15	鶴鶴	ささき・ささぎ・さざき	佐々木と同様とも言われる。語源は「小さな崎（ささき）」（突き出た小地形）を表している。
16	八百屋	やおや	起源は屋号性で、「魚屋（うおや）」という苗字もある
17	平和	ひらわ	関西地方がルーツと思われ「平ら」で「輪」のような地形を意味している。

18	万歳	まんざい	奈良県である「大和国葛下郡万歳郷」が起源とされる
19	幸福	こうふく	薩摩が起源と言われる。また、山形県酒田市や大阪府門真市もルーツの一つ。他にも「光福寺の寺侍」や屋号や称号が由来の場合もある。また、当時生活が苦しかった農民が、「せめて名前だけでも」と願いを込めたという説もある。
20	流石	さすが・ながれいし・ながれ・りゅうせき・りゅうぜき	現山梨県である甲斐国都留郡勝山村が起源という。「石」は石や岩で堅い地盤を表している。

## 中級編

1	酢	す	富山県である中越が発祥と言われる。同地特有の生活用品や日常に見られるものが由来と言われる。砂糖や塩（しお・えん）・味噌という苗字もある。
2	昆布	こんぶ	北海道虻田郡に「昆布」という地名がある。昆布が取れる場所や職業が語源と言われる職業姓。
3	竹ノ子	たけのこ	青森県に多く見られる伝統的な苗字。由来は竹の茂っている地形からと思われる。
4	和食	わじき	徳島県である阿波国那賀郡和食村が起源という。他にも、元高知県である土佐国安芸郡和食郷がルーツという説もある。「和」は輪のような地形を表している。
5	皇	すめらぎ	滋賀県の浄土真宗の浄願寺が由来という。また、皇花山の「皇」の文字が語源とも言われる。
6	勘解由小路	かでのこうじ	京都の小路の名称であり、勘解由使庁の所在地から着いた。
7	宇宙	うちゅう	長崎のお寺の関係者が、仏典からとった仏教用語が由来という。
8	雲母	きらら・きら	静香県や北海道にもこの苗字が見られる。鉱物の「雲母」がキラキラと光ることから名前が着いた。
9	突々	とつとつ・とつとつ	兵庫県や東京都に見られる。由来は不明。
10	七五三掛	しめかけ・しめがけ・しめい	山形県の出羽国田川郡大網村（現朝日村）七五三掛が起源。「注連（しめ）かけた聖地」立ち入り禁止の土地が語源。茨城県や栃木県などで見られる。
11	百々米木	よどめき	現富山県の中越が発祥の伝統的な苗字。
12	八月一日	ほづみ・はっさく・やぶみ・ほづみ	同じ読みで「八月朔日」と書く場合もある。源氏にも見られる。穗積氏の異形であり、旧暦八月1日に実る稻の穂を摘み送る風習が語源。
13	四月朔日 四月一日	わたぬき・つぼみ・わたぬぎ・さつき	綿貫と同様ともいえる。清和天皇の子孫で源姓を賜った氏、桓武天皇の子孫で「平」の姓を賜った家系である平氏、中臣鎌足が天智天皇より賜ったことにはじまる氏、などに見られる。旧暦の四月一日に、記物などの綿を抜くころからされている。
14	栗落花 五月七日	つゆり	五月七日、梅雨に入るので「つゆり」と読むそうです。梅雨に入るころに栗の花が落ちるから「栗落花」と書く。ほかにも、この日に栗花落（つゆり）という雨乞いの祭が行われるのが語源。
15	源五郎丸	げんごろうまる	現佐賀県と長崎県である肥前が起源。「源五郎の開拓した土地」が語源で、源姓が由来。
16	謝花	しやはな・しやはな・じやはな・ざやはな・しやはな・しゃか	沖縄県由来の苗字。「本部間切謝花」という土地の名前が起源。
17	百目鬼	どうめき・どめき・ももめき・ひやくめき・とどめき・もめき	茨城県である常陸起源とも言う。語源は「流水や車馬の進む音」という。茨城県や栃木県に多い。

18	月見里	やまなし・つきみさと	山がないと月見が良くできるという由来。
19	小鳥遊	たかなし	鷹が居ないと小鳥が遊べるので「たかなし」と呼ぶ。高梨からの転訛とされている。清和源氏の子孫で源姓を賜った氏、井上氏流の名族という。
20	猫屋敷	ねこやしき	猫好きの家は関係なく、この場合の「ねこ」は「根っこ（根本）」やそば、かたわら」で、「猫の額ほどの土地」を意味する。岩手県南東部と北西部」を除く地域が発祥の地という。

## 上級編

1	一	はじめ・いち・にのまえ・よこ いち・いともんじ・ひともん じ・かずと・でかた	語源は一の村、一の坪、一の庄などの当て字とされている。地名も各地にみられ、由来も諸説ある。「一」は昔から縁起の良い数とされている。
2	四	あずま	東屋のことと中国伝来語で「四阿」と書くことから、四を「あずま」と読むようになったという。現在では、新潟県に一世帯のみが存在している。
3	五六	ふのぼり・ふかぼり	将棋で、歩が五六の位置から進むと「金に成る」ことから「ふのぼり」と読む。
4	九	いちじく・いちのく・く・ くのく・まる	「いちじく」という読み方は、数字の9が一字で書けることからこう読まれたという説と、ひとつの字で九なので「いちじく」と読む説などがある。村内や軒数などの地名にするよう、現在では新潟県や長野県に少数ある。
5	十	もげき・もぎき・じゅう・つな し・ もげき・よこたて・つじ	漢字の「木」の左右の払いが、もげていることから「もげき」と読むようになった。新潟県や北海道などに少数見られる。
6	九十九	つくも	「百（も）に、あとひとつで着く」という意味で「つくも」と読む。群馬県安中市に「九十九」という地名もある。長崎県に九十九島など、全国にある地名。
7	艸樂	さがら	この苗字は、愛知県に見られるが、由来は不明。
8	百鬼	なきり・なぎり	現静岡県西部にある遠江が起源と言われる。静岡県に多く、特に磐田市に集中している。
9	喜屋武	きやん・きやん・きやたけ きやぶ・きやたき・きやだけ きやし・きやむ・きよたけ かやてけ	琉球である沖縄の苗字。沖縄本島最南端の自治体だった喜屋武間切（のちの喜屋武村）が起源であり、語源は「島の最南端」という意味から来ている。
10	文殊四郎	もんじゅしろう	香川県の讃岐が発祥という。中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる。福井県でも見られる苗字。
11	角大鳥居	すみおおおとりい・すみお	福岡県の水田天満宮に隣接する土地で、大鳥居一族から、浦鬼門に作った神社を任されていたのが「角大鳥居」と言わされた由来。
12	次郎垣内	じろうがきうち・じろうがい ち・じろうかきうち	山口県にある長門が発祥という伝統的な苗字。「内」は屋敷内の内側や自分ものという意味。
13	良縁寺	りょうえんじ	福島県喜多方市に「良縁寺」という寺院がある。
14	四十九院	つるしいん	三重県北西部にあった伊賀国阿拝郡四十九院が起源。四十九日の間は仏事では「中有」（人が死んでから、次の生を受けるまでの間）であり、生魂であるため魂を慰める場所が四十九院とされる。
15	大豆生田	おおまめうだ・おおまみうだ・ おおまみゆうだ・おおまめだ まみうだ・おいまにゅうだ おおつきだ・おおましようだ おおまにだ・おおまにゅだ	現栃木県である下野が起源と言われ、大豆の植えられた田んぼが地名となり、姓氏に使われるようになった山梨県や栃木県に多く見られる。」

		おおままで・おおまめいくた おおむた・おおもうだ・ほめま いきた・ましぇだ・まにうた まみやわだ・まめおだ	
16	御菩薩池	みぞろけ・みぞろげ	京都の山城国愛宕郡御菩薩池が発祥という。由来は池の水面に地蔵菩薩の姿が現われたという言い伝えから名前が着いたという。
17	一番ヶ瀬	いちばんがせ・いちばんかせ いちばがせ	佐賀県である肥前国神崎郡服卷一番ヶ瀬が起源といふ。「瀬」は流水が浅く流れるところを表している。佐賀県など九州北部に多数見られる。
18	左衛門三郎	さえもんさぶろう	名前が苗字に転じたという。豪族の名前から自己の所領に地名がつき、子孫が苗字を名乗ったとされる伝統的な苗字。他にも左衛門田、左衛門九郎などの地名も見られる。
19	毒島	ぶすじま・どくしま・ふすじま どくじま・とくしま	群馬県にある上野が起源といふ。「ぶす」はトリカブトの別名の附子をさしている。
20	畠	もたい・さかだる	東京都、埼玉県広域・神奈川県北部である武藏、或いは長野県である信濃が起源と言える。「茂田井」から転訛したとも考えられる。近年では、新潟県柏崎市に多く見られる。

## 上級編

1	神	じん・かみ・こう・かん・かなえ しん・みわ・こお	「神」にはいくつかのルーツがある。出雲大社から出た諏訪神家の子孫や、三輪氏族の子孫が神氏を故障していた。また、後世には中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）の神氏も見られる。
2	鬼	おに・きい・き・きさらぎ・ きいん	島根県西半部である、石見国邇摩郡鬼邑が発祥という伝統的な苗字です。豊臣秀吉らの強さを認められ、「鬼のように強いから」という理由で授けられた苗字
3	回り道	まわりみち・まはりみち	和歌山県日高郡日高川町千津川回り道が起源とされる。「まはりみち」という読み方は歴史的かな違ひの読み方。
4	浮気	うき・ふけ・うくぎ・うわさ うきげ	滋賀県守山市浮気町が起源といふ。語源は、水の豊かな土地で早朝などに水蒸気が上がって見えるのが由来で、恋愛の浮気とは関係なし。
5	南蛇井	なんじやい	群馬県富岡市にある南蛇井という町が発祥です。
6	卍山下	まんざんか・まんじやました	日本である苗字で「卍」を使うには「卍山下」だけで起源は、大分県別府市の僧侶による明治時代の新姓。
7	不死川	しなずがわ・ふじがわ	語源は藤川と同じと思われる。浄土真宗本願寺派の僧などに見られる寺院の姓です。
8	凸守	でこもり	由来は不明。大阪府に1世帯ある様です。
9	肉丸	にくまる	「～丸」とは「(～の開発した田んぼ) という意味。大分県宇佐市や長崎市に見られる苗字。
10	禿	かむろ・とく・はけ・かぶろ・ はげ・いなづか	「かむろ」とは、昔の少女の髪型で、今で言う「オカッパ」に近い髪型のこと。熊本県に多く見られる。
11	毛穴	けな・けあな	大阪府堺市中区毛穴町が発祥と思われる。古くは「毛名村」と呼ばれていた。鎌倉時代には「かな」の表記で存在している。大阪府堺市で多く見られる苗字。

12	<b>鼻毛</b>	はなげ	「ハナ」は岬、先などの意味を持つ地形語で、「ケ」は「下」などの意味を持つ接続詞。「花家」や「花毛」と書く場合もある。仙台市泉区や福島市に鼻毛という地名もある。大阪市大津市に多く見られる。
13	<b>鬚</b>	ひげ	京都北西部と兵庫県東部にある「丹波国多紀郡」の有名氏族の姓。大阪府や滋賀県に多く見られる。
14	<b>父母</b>	ふぼ・たらちね・ふも・ふほたらし	熊本県肥後が発祥の地という。香川県には「父母が浜」(ちちぶがはま)や「父母峠」(ちちぶとうげ)などの地名があり、地名が由来の場合もある。また「ふぼ」「ふほ」と呼んだ場合は、「節(ふ)面(も)」で、節のように盛り上がった土地のことを指します。
15	<b>人首</b>	ひとかべ・ひとこうべ	岩手県にあった陸中郡江刺郡人首村が起源という。坂上田村麻呂が悪路王の一族人首丸の首をはねたことに由来するとの伝説。岩手県・福島県・東京都に少数見られる苗字。
16	<b>鳳凰</b>	ほうおう	京都府宇治市にある「平等院鳳凰堂」が由来という。熊本県に多くみられる苗字。
17	<b>王来王家</b>	おくおか・おうらいおうけ	「奥岡」語源は同じ。三重県の「伊勢」が発祥という
18	<b>悪七</b>	あくしち	「悪」という字はかつて「強いもの」や「力強さ」という意味合いを持ち、良いイメージも併せ持っていた「悪七」とは、平安・鎌倉期の武将である「藤原景清(平景清)」のことで、その末裔が名乗っていたという
19	<b>留守</b>	るす・とめもり	多賀国府の民政を司とった職「留守職(るしき)」が起源という。職掌姓であり、本職に代わって政務を執行するというのが由来。源頼朝の代わりに、多賀府で伊沢氏がこれにあたり、後の姓氏となったという。宮城県、山形県などに見られる苗字。
20	<b>無敵</b>	むてき	山口県下関市の餅屋が、長州軍と幕府軍の戦いに石を投げて参戦したことで、高杉晋作からその功績を称えられ「無敵幸之進勝之」の名前を賜った。山口県下関市・熊本県・大分県に獄少数見られる。
21	<b>春夏冬</b>	あきない・あきなし	「秋」の字が抜けているので、着いた苗字。商売の「商い」にかけた意味もあると思われる。
22	<b>明日</b>	ぬくい・あけひ・みょうが・あす	「明日が晴れますように」と意味が込められた苗字
23	<b>缶</b>	ほとぎ	金沢市では江戸時代に越後谷の屋号で素焼きの臺を「缶」と表現していたという。推定では新潟県が起源地ではないかという。石川県に10人や東京都や神戸市に少数いる。
24	<b>五百旗頭</b>	いおきべ・いおりべ・いほきべ	皇紀からでは弥生時代の景行天皇の皇子である「五百城入彦皇子(いおきりびこのみこ)」の御名代部から来ている。兵庫県、大阪府に多く見られる。
25	<b>雲類鶯</b>	うるわし	茨木県行方氏小貫(旧:宇流波斯小野)が発祥という奈良時代に記録のある地名。茨木県に多く在住。
26	<b>一尺八寸</b>	かまずか・かまつか	昔、かまの柄が一尺八寸あった事に由来する。静岡県に20人ほど在住。
29	<b>御薬袋</b>	みない	薬袋の異形で、兵庫県に20人、東京都に10人在住
30	<b>武者小路</b>	むしゃのこうじ・むしゃこうじ	通路から着いた苗字で、「無車小路」とも書いた。東京都に20人千葉県に10人在住という。

3 1	<b>猩々</b>	しょうじょう	松前藩の殿様に自家製のお酒を献上したら大変喜ばれたという言い伝えがあり、能の「猩々」という演目がある。北海道に多く在住している。
3 2	<b>陸上</b>	くがうえ・くがみ	鳥取県岩美郡岩美町陸上が発祥の地という。戦国時代の記録の有る地名。兵庫県に極少数在住。
3 3	<b>奉日本</b>	たかもと	高本の異形で「日本を奉る」という意味で称した。大阪府茨木市に極少数在住。
3 4	<b>四十物</b>	あいもの	「あいもの」とは、「生きもの」と「干しもの」の中間という意味で、全部で四十種類あったので「四十」と書いたという。更に乾物は始終食べられたので「四十（しじゅう）と書いた地言う。富山県や北海道に多く在住。
3 5	<b>五十山田</b>	いかいだ・いがいだ	新潟県の越後が発祥という。山は地形の山を表す。全国で70人程度在住。
3 6	<b>主税</b>	ちから	百官名の一つで、主税寮（ちからのつかさ）から由来
3 7	<b>鶴喰</b>	つるはみ・つるばみ	昔、源頼朝がこの地に来た時にたくさん鶴が餌をとっていたのを見てつかられたという、古くは青木・新谷・八田畠・藤代町を含めた広い範囲を「鶴喰郷」と言った。また青森県上北郡六戸町が発祥の地という説もある。北海道に130人、鹿児島県に50人、他に少数在住する。
3 8	<b>鍛治屋敷</b>	かじやしき	鍛治屋敷という地名が起源。全国に40人程度在住
3 9	<b>嘉数</b>	かかず・かすう・よしかず	ルーツは沖縄で、宜野湾市や富見城市に嘉数という地名があり、それが苗字になった。岡山県にも在住者
4 0	<b>美甘</b>	みかも	岡山県北東部の美作国真島郡美甘郷が起源という。岡山県に多く在住。
4 1	<b>外種子田</b>	ほかたねだ	由来については不明。宮崎県や鹿児島県に30人在住
4 2	<b>長曾我部</b>	ちょうそかべ	高知県の土佐国長岡郡曾我部が起源。宮崎県や熊本県に多く見られる。
4 3	<b>喜屋武</b>	きやん・きやん・きやたけ・きやぶ・きやし・きよたけ	旧琉球の苗字で、喜屋武間切が起源という。語源は、島の最南端という意味。沖縄・東京都・鹿児島県に6400人在住。
4 4	<b>蓬萊</b>	ほうらい	元来は中華人民共和国山東省の東の海に、ある仙人が住むという伝説の土地が起源。秦の時代にシナで不老不死の薬を求めて東方に船出した徐福伝説があり。兵庫県加東市大門では、室町時代に居住した佐国氏の後継者が江戸時代に改姓したと伝えられる。全国に1700人ほど在住し、兵庫県に多い。
4 5	<b>祖母井</b>	うばがい	栃木県にある地名が起源で、栃木県の大名だった宇都宮氏に仕えていたが、南北朝時代に宇都宮氏の分家が愛媛県の伊予に移り住んだので、祖母井氏の分家も移り住んだという。「ウバ」とは地形を指し、主に一部がえぐられた地帯という意味。愛媛県や東京都その他に在住し470人在住。
4 6	<b>神酒</b>	みき	熊本県に見られ、酒造氏など酒造りにまつわる職業から来ている。全国に70人おり熊本県鹿児島県に在住。
4 7	<b>四十谷</b>	あいたに・しじゅうたに	福井県東部にある越前国坂井郡四十谷が起源という。全国で120人で富山県に多く在住。
4 8	<b>柘植</b>	つけ・つけうえ・つけしょく しげうえ・ざくうえ・せきしょく・たくしょく・しゃち	三重県西部にある伊賀国阿拝郡柘植庄が起源という。桓武天皇の子孫で、平の姓を賜った家系である平高棟王流がある。他に清盛流などにも見られる。

49	八十科	やそしな	伝統的な苗字で、近年、北海道檜山喉に見られる。全国に20人ほど在住する。
50	瀧野瀬	たきのせ	滝のある地形や地域が語源で、三重県北西部である伊賀国柏原村瀧野が起源という。大江氏（十師の族で相撲の元祖の野見宿禰の子孫。平城天皇の子孫と言われる）とも言われる。他に源氏、中臣鎌足より賜ったことに始まる氏（藤原氏）などに見られる。全国に30人ほど在住。東京都静岡・神奈川に多い。
51	昌子	しょうじ・しょうご・しょじ・まさこ・まさご・あさこ	島根県の出雲が起源という。全国に690人在住し島根県に多く在住。
52	貴家	さすが・きや・きか	山梨県の甲斐が起源というがはっきりはしない。山梨県や東京都などで370人在住する。
53	末包	すえかね	兵庫県南西部である播磨国佐用郡末包村が起源。中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）。全国に550人在住し香川県や大阪府に多い。
54	小比類巻	こひるいまき・こびるいまき・こひるまき・こびるまき	青森県がルーツで、アイヌ語で「窪地のところ」という意味が語源。全国に1000人在住し、青森県や北海道・東京都に多く在住。
55	一二	かずじ・いちに・ひふ・つまびら・いちじ・ひふた	はっきりとした由来は不明。全国に110人在住する。熊本県に多い。
56	小浮気	おぶき・こぶけ・こぶけ	下総国相馬郡小浮気村が発祥という。語源は小さな湿地帯という意味。全国に20人在住で京都府と滋賀県に多い。
57	目	さかん・さがん・さつか・しゃがん・め・もく・さがみ・	大宝令による太政官制の四等官（主典）のことによれば、その子孫にあたる。語源は、目のような細長い地形を言う。全国に700人在住し、大阪府や山口県に多い。
58	降魔	こうま	由来等は不明。全国に20人ほど在住。岡山県・大分県に多い。
59	頭利	ずり	由来は不明。岡山県に30人在中。
60	英	あなた・あがた・えい・はなぶき・さだ・ひで	石川県の加賀国が発祥という。語源は花弁の形に広がった街並みという。全国に2800人在住し、石川県・東京都・大阪府に多い。
61	水流	つる・みずなが・みずながれ・すいりゅう・みずる	薩摩国出水郡水流村が起源という。水流とは小川や用水路沿いに開墾された土地のこと。2300人在住し、鹿児島県・宮崎県に多く在住。
62	上水流	かみずる・かみつる・かみすいりゅう・かみみずながれ・じょうすいりゅう	薩摩国出水郡上水流村が起源という。「上」は下や中に対し、高い所や奥を表す。「水」は水のある所を表す。730人在住し、鹿児島県に多い。
63	下水流	しもずる・しもつる・しもづる	薩摩国出水郡下主流村及び日向国諸県郡下水流村が起源。「下」は上や中にたいし、低い所やふもとを表す。270人在住し、鹿児島県に多い。
64	興梠	こおろぎ・こうろぎ・こうのき・こうまつ・こうりよ・こし	語源は、神靈の宿る清い木の意味で、神の依り代の木から来ている。全国に5600人在住し、宮崎県や熊本県に多い。
65	妻鳥	つまとり・つまとり・めんどりめとり	愛媛県の伊予国宇摩郡妻鳥村が起源。全国に1100人在住し、愛媛県東予地域に多く見られる。
66	十一	といち・とかず・じゅういち・そいち	青森県八戸市に地名がある。裏通りの町人町が語源。全国に90人おり、香川県、大阪府に多い。
67	祝	いわい・しゅく・つう・のりしゅう・のりと・はじめ・よしはふり・ほほり・ほり・ほおり	職名により起る苗字。全国に1800人在住し、新潟県、大阪府に多い。
68	萬里小路	までのこうじ	公家萬里小路家は中臣鎌足が天智天皇より賜ったことに始まる氏（藤原氏）良門流とも言われる。全国に40人在住し、東京都、富山県に多い。

69	九十三	つくみ	九十九（つくも）氏からの派生姓。全国に10人在住し、北海道に在住。
70	東風平	こちひら・こちんだ・くちんだ	琉球である沖縄県東風平間切が起源。東風が吹く平坦な土地が語源。全国に500人在住し沖縄に多い。
71	弥勒院	みろくいん	お寺のある地域や僧に由来。全国に60人在住し、千葉県に多い。
72	木牟礼	きむれ	宮崎県の日向が起源という。鹿児島県出水市に木牟禮城址（島津家発祥の地とされる）があり、近隣に同姓が見受けられる。全国に120人在住し、宮崎県に多い。
73	瑞慶覧	ずいけいらん・ずけいらん すげらん・すけちん・すけらん みずけいらん	琉球である沖縄県由来の苗字。中城間切端慶覧が起源。全国に2400人在住し、沖縄県に多く在住。
74	天女目	あばため・なばため・なめの	生田目と語源をともにする。栃木県の下野が発祥。伝統的な苗字です。全国に30人在住する。
75	御得久	ごえく	琉球である沖縄県由来の苗字。全国に280人在住し、多くは沖縄県に在住。
76	四十宮	よそみや	徳島県である阿波発祥とも言う。「宮」は神社を表す。全国に40人在住し、徳島県に多く在住。
77	鹿子生	かごあ・かねお・かこう	福岡県南部の筑後国上妻郡鹿子生村が起源で八女郡黒木町土窪に集中している。全国に250人在住。
78	方波見	かたばみ・かたなみ・かわみ かばみ・ほうなみ・ほなみ	茨木県の常陸が起源。桓武天皇の子孫で、平の姓を賜った家系である平氏大掾氏流です。全国に1900人在住し、茨木県や東京都、神奈川県に多く在住。
79	我如古	かねこ・がねこ・かじょこ・ あにこ・がにく・がねく	琉球である沖縄県が由来の苗字。宜野湾間切我如古が起源という。全国に2200人在住し、沖縄県に多い。
80	東京	とうきょう	全国に10人と希少な苗字。
81	安心院	あじいん・あじみ・あじむ	大分県北部の豊前国宇佐郡安心院荘が起源。宇佐八幡宮がこの地で安心生得されたことに由来する。全国に580人在住し、大分県、福岡県に多い。
82	六十里	ついひじ・むそり・ついふじ	伝統的な苗字ですが由来は不明。全国に30人在住するが、東京都、神奈川県・千葉県に在住。
83	注連野	しののめ・しめの	七五三野と語源は同じ。上総国が発祥という。全国に100人在住し、千葉県袖ヶ浦市に多い。
84	南風原	はえはら・はえばら	旧琉球である沖縄県島尻郡勝連村などが起源。南風が吹いている原が語源という。全国に690人在住し、沖縄県に多い。
85	弘原海	わだつみ・ひろはらうみ	兵庫県の丹波が発祥という。全国に50人在住し、兵庫県に多い。
86	弓納持	ゆみなもち	新潟県の越後が起源という。全国に400人在住し、新潟県に多い。
87	佐佐布	さそう	出雲国意宇郡佐佐布村が起源という。宇多天皇の皇子敦実親王を祖とする源氏（宇多源氏）佐々木氏流がある。「佐」は下総国佐野庄、または左衛門尉の職名を指す。全国に180人在住し、神奈川県や宮城县などに多く在住する。
88	五十殿	おむか・おみか	島根県の出雲国が起源という。全国に130人在住し島根県、大阪府埼玉県に多く在住する。
89	今給黎	いまきいれ・いまぎれ・いまく れ・いまきゆれ・いまきゆり こんきゅうりょう・こんきゅう	鹿児島県薩摩の豪族、給黎郡知覽を領したことが由来。全国に920人在住し鹿児島県に多く在住。
90	右衛門佐	うえもんさ・うざいもざ・ よもさ・うえもんすけ・	官職名より転じた苗字。または、左衛門尉の職名。全国に90人在住し、大阪に多い。